

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭57-125705

⑬ Int. Cl.<sup>3</sup>  
A 47 B 67/02  
A 47 K 1/02

識別記号

庁内整理番号  
6759-3B  
7017-2D

⑭ 公開 昭和57年(1982)8月5日

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑮ 化粧台

⑯ 特 願 昭56-10656  
⑰ 出 願 昭56(1981)1月26日  
⑱ 発 明 者 岡田仁男

門真市大字門真1006番地松下電  
器産業株式会社内

⑲ 発 明 者 下野和啓

門真市大字門真1006番地松下電  
器産業株式会社内

⑳ 出 願 人 松下電器産業株式会社  
門真市大字門真1006番地

㉑ 代 理 人 弁理士 中尾敏男 外1名

明 細 書

1、発明の名称

化粧台

2、特許請求の範囲

キャビネットの天板上に、主鏡とこれに隣接する副鏡とで構成された鏡体を立設し、前記副鏡は表裏面を鏡面としていたるとともに主鏡側に一端部を枢支した支持アームの反対側端部に回動自在に取付けて、前方向及び主鏡と相対する位置まで移動自在としたことを特徴とする化粧台。

3、発明の詳細な説明

本発明はキャビネットの天板上に鏡体を立設した化粧台に関するものである。

従来の化粧台は鏡体が固定されているために、鏡体の前に立った人が、自分の後姿を自ら見ることは出来なかった。又顔を大きく見たい場合には天板の前方から身を乗り入れて、顔を鏡体に近づけなければならない不便さがあった。

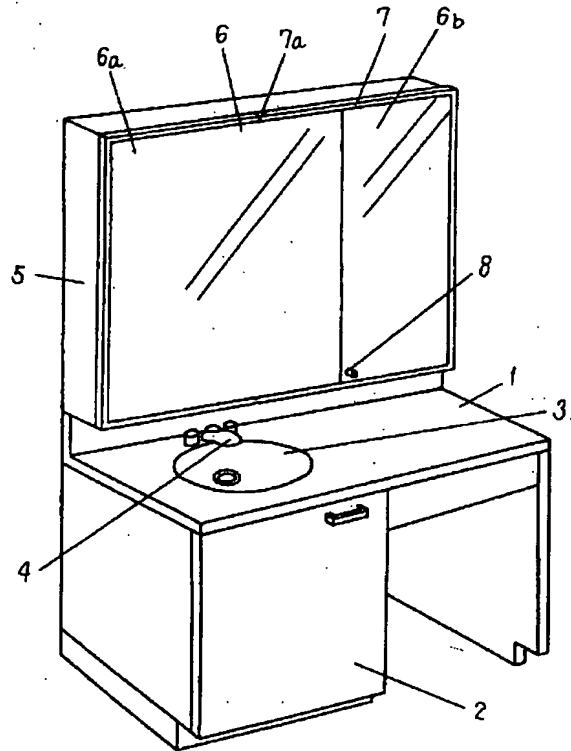
本発明は前記不便さを解消したものであり、以下その一実施例を説明する。図において、1はキャ

ビネット2の天板で、水槽3、蛇口4などを備えている。5は天板1の背後に立設された化粧枠で、この表部には鏡体6が設けられている。鏡体6は化粧枠5に固定された主鏡6aと、この横に隣接する副鏡6bとからなる。副鏡6bは表裏面を鏡面としていたるとともに、主鏡6a側に一端部7aを枢支した支持アーム7の反対側端部7bに回動自在に取付けられている。8は副鏡6bの表部に設けた把手である。

前記構成によれば、第1図に示す状態、すなわち主鏡6aに副鏡6bを隣接した状態から、把手8をもって副鏡6bを第3図想像線で示すように、前方向及び、同図実線で示すように、主鏡6aと相対する位置まで移動させることができるので、天板1上に身体Aを乗り入れることなく、顔を大きく見ることが出来るとともに、自分の後姿も見ることが出来るものである。

なお8は副鏡6bの側端部に突設した弾性体からなるキャッチで、副鏡6bを主鏡6aに隣接させた時、主鏡6aの側端部に嵌合して副鏡6bを

第 1 図



係止させる。又10は副鏡6bと相対する化粧枠5部分に形成した棚で、ここには化粧品などを収容させることができる。

以上説明したように、本発明の化粧台は鏡体を主鏡と副鏡で構成し、副鏡の支持構成を配慮したことにより天板上に身を乗り入れることなく、顔を大きく見ることが出来るとともに、後姿も見ることができるなどきわめて簡単な構成で使い勝手のよいものである。

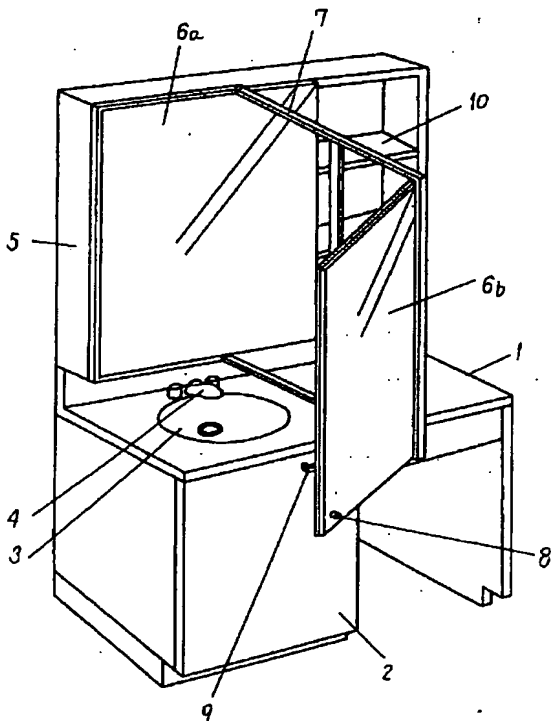
4、図面の簡単な説明

図は本発明の一実施例を示し、第1図は副鏡を主鏡に隣接した状態の化粧台全体を示す斜視図、第2図は副鏡の移動状態の化粧台全体を示す斜視図、第3図は第2図における平面図である。

1……天板、2……鏡体、6a……主鏡、6b……副鏡、7……支持アーム。

代理人の氏名 弁理士 中 尾 敏 男 ほか1名

第 2 図



第 3 図

